

鹿児島県南さつま市沿岸から得られた九州初記録種を含む薩摩半島初記録の魚類 8 種

望月健太郎¹・ジョン ビョル²・佐藤智水³・山田守彦⁴・松岡 翠³・本村浩之⁵

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院農林水産学研究所 (鹿児島市)

k3545896@kadai.jp

² 鹿児島大学大学院連合農学研究科 (鹿児島市)

³ 鹿児島大学水産学部 (鹿児島市)

⁴ いおワールドかごしま水族館 (鹿児島市)

⁵ 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 12 December 2022

Revised 20 December 2022

Accepted 21 December 2022

Published 22 December 2022

DOI 10.34583/ichthy.27.0_66

Kentaro Mochizuki, Byeol Jeong, Masayuki C. Sato, Morihiko Yamada, Midori Matsuoka and Hiroyuki Motomura. 2022. First records of eight fish species, including the first Kyushu records, from Minami-satsuma, Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 27: 66–73.

Abstract

Eight fish species were newly recorded on the basis of collected specimens from Minami-satsuma, Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. Among them, specimens of *Sebastapistes fowleri* (Pietschman, 1934) (Scorpaenidae) and *Fowleria vaiulae* (Jordan and Seale, 1906) (Apogonidae) represent the first records of these species from Kyushu, and specimens of *Paracirrhites arcatus* (Cuvier, 1829), *Paracirrhites forsteri* (Schneider, 1801) (Cirrhitidae), and *Halichoeres hartzfeldii* (Bleeker, 1852) (Labridae) represent the first specimen-based records of these species from Kyushu.

薩摩半島は九州南西部に位置し、西部から南部にかけて東シナ海、東部は鹿児島湾にそれぞれ面している (岩坪ほか, 2022)。岩坪ほか (2022) は鹿児島湾を除く薩摩半島沿岸と鹿児島県本土の八代海沿岸の魚類相をまとめ、標本もしくは水中写真を含めた写真資料に基づき 1,294 種を報告した。その後も同地域から追加種が報告されており (Koreeda and Motomura, 2022; 出羽ほか, 2022a; 樋口ほか, 2022; 是枝ほか, 2022b; 是枝・本村, 2022; 佐藤・本村, 2022), これまでに本地域から記録された魚類の総種数は 1,303 種に達する。

2022 年 8–9 月にかけて、鹿児島県薩摩半島西岸に位置する南さつま市沿岸で計 3 回のダイビングによる調査が実

施された。その結果、九州沿岸初記録種を含む 8 種の薩摩半島初記録となる魚類の標本が得られたため、ここに報告する。

材料と方法

標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。リスト中の各種の学名と科の掲載順は本村 (2022) にしたがった。フサカサゴ科の頭部の棘の名称は Eschmeyer (1969) を和訳した尼岡 (1984) と本村ほか (2004) にしたがった。本報告に用いた標本と生鮮時の写真は全て鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されている。

フサカサゴ科 Scorpaenidae

Sebastapistes fowleri (Pietschmann, 1934)

ブチフサカサゴ (Fig. 1A)

標本 KAUM-I. 172864, 体長 30.0 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町塩ヶ浦沖 (31°15'16"N, 130°13'59"E), 水深 11 m, 手網, 2022 年 9 月 8 日, ジョン ビョル。

同定 南さつま市産の標本は背鰭棘条数が 12 であること、後頭部が狭く、後頭窩が浅いこと、前頭骨隆起が後方で閉じた円形の隆起を形成すること、涙骨下縁の後方棘が下方を向くこと、片鰓末端の背側がスリッド状ではないこと、体側部が櫛鱗で覆われること、および側線が完全であり、尾鰭基部まで伸びることなどの特徴が Poss (1999), Motomura and Senou (2009), Motomura et al. (2014), および Poss and Motomura (2022) の示したマダラフサカサゴ属 *Sebastapistes* の特徴と一致した。さらに本標本は胸鰭鰭条数が 16 であること、側線上方横列鱗数が 34 であること、口蓋骨歯をもたないこと、額棘をもたないこと、涙骨下縁の後方棘が下方を向くこと、眼下骨棘を 2 棘もつこと、主鰓蓋骨下方棘の中央が隆起し、被鱗しないこと、体背面と体側面が櫛鱗で覆われること、および小型 (体長が 30.0 mm) であることなどの特徴が Motomura and Senou (2009)

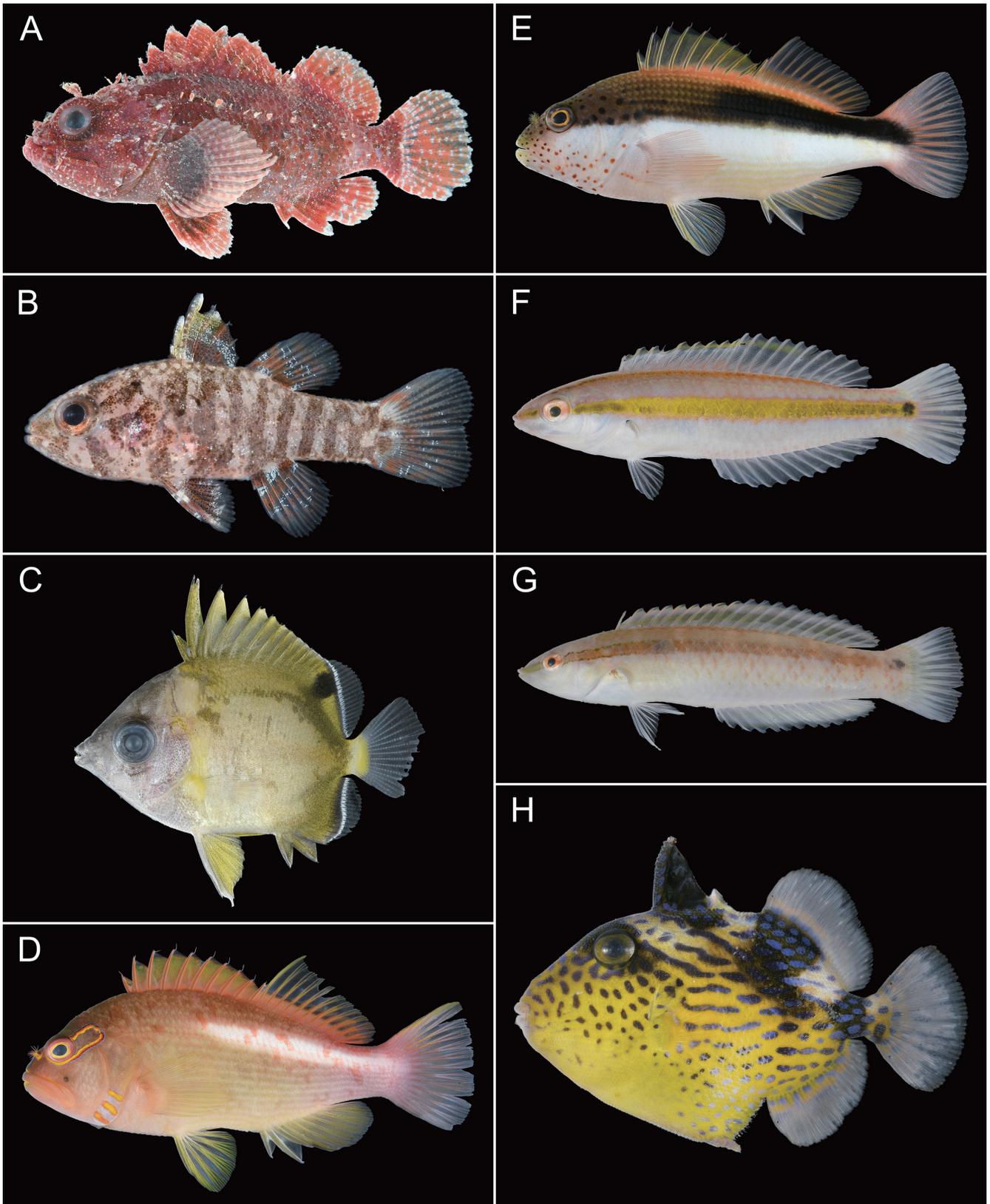


Fig. 1. Fishes collected from Minami-satsuma, Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. A, *Sebastapistes fowleri* (Scorpaenidae), KAUM-I. 172864, 30.0 mm SL; B, *Fowleria vaiulae* (Apogonidae), KAUM-I. 174053, 18.7 mm SL; C, *Chaetodon nippon* (Chaetodontidae), KAUM-I. 172867, 22.9 mm SL; D, *Paracirrhites arcatus* (Cirrhitidae), KAUM-I. 170831, 62.5 mm SL; E, *Paracirrhites forsteri* (Cirrhitidae), KAUM-I. 173699, 57.5 mm SL; F, *Halichoeres hartzfeldii* (Labridae), KAUM-I. 170824, 44.2 mm SL; G, *Suezichthys gracilis* (Labridae), KAUM-I. 170814, 65.3 mm SL; H, *Pseudobalistes fuscus* (Balistidae), KAUM-I. 170648, 50.7 mm SL.

およびPoss and Motomura (2022)の示したプチフサカサゴ *S. fowleri* の特徴とよく一致したことから、本種に同定された。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する (Poss,

1999; Motomura and Senou, 2009; Poss and Motomura, 2022).

日本国内からは静岡県伊豆半島、高知県沖ノ島、大隅諸島 (竹島・硫黄島・黒島・屋久島)、奄美群島 (喜界島・

奄美大島・加計呂麻島・沖永良部島), 伊江島, 宮古諸島, および八重山諸島(石垣島・与那国島)から記録されていた(Motomura and Senou, 2009; Motomura and Matsuura, 2010; 中坊・甲斐, 2013; 本村, 2013, 2014, 2019a; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 出羽ほか, 2022b). 本研究により鹿児島県薩摩半島沿岸からも本種が記録された。

備考 プチフサカサゴの記録は「分布」の項目に示した通りであり, 南さつま市産の標本は本種の九州沿岸における初記録となる。

テンジクダイ科 Apogonidae

Fowleria vaiulae (Jordan and Seale, 1906)

シボリダマシ (Fig. 1B)

標本 KAUM-I. 174053, 体長 18.7 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦神ノ島東側 (31°26'03"N, 130°11'48"E), 水深 3–20 m, 手網, 2022 年 9 月 26 日, 山田守彦・上野大輔・松岡 翠・ジョン ビヨル・望月健太郎・佐藤智水。

同定 南さつま市産の標本は背鰭鰭条が VII-I, 9 であること, 臀鰭鰭条が II, 8 であること, 胸鰭軟条数が 13 であること, 側線有孔鱗数が 9 であること, 背鰭前方鱗数が 6 であること, 鰓耙数が 1 + 4 であること, 眼窩下縁や眼下部が平滑であること, 前鰓蓋骨縁が平滑であること, 両顎と鋤骨に小さな円錐歯をもち, 犬歯状歯をもたないこと, 口蓋骨に歯をもたないこと, 上主上顎骨が小さいこと, 尾鰭の上葉と下葉の後縁が丸みを帯びること, 尾鰭最長軟条が分枝すること, 頭部と体部が櫛鱗で覆われること, 側線が 1 本であること, 側線有孔鱗が第 2 背鰭下方で中断し, その後は孔がある鱗が並ぶこと, 体色が赤褐色で, 眼後部と眼下部に茶褐色の不明瞭な斑紋が眼を中心として放射状に並ぶこと, および体腹面に発光腺をもたないことなどの特徴が Mabuchi et al. (2014) や Fraser et al. (2022) の示したシボリ属 *Fowleria* の特徴とよく一致する。さらに本標本は胸鰭軟条数が 13 であること, 体色が赤褐色であること, 主鰓蓋骨上方に黒色斑をもたないこと, 側線起部に小さな黒色斑をもつこと, 体側に不明瞭な茶褐色の横帯が並ぶこと, 眼後部と眼下部に茶褐色の不明瞭な斑紋が眼を中心として放射状に並ぶこと, および背鰭, 臀鰭, 腹鰭, および尾鰭に不明瞭な赤色斑と小さな白斑が並ぶことなどの特徴が Kuitert and Kozawa (2019) や Fraser et al. (2022) の示したシボリダマシ *F. vaiulae* の特徴とよく一致したことから, 本種に同定された。

分布 インド・西太平洋に広く分布する (Kuitert and Kozawa, 2019; Fraser et al., 2022)。日本国内からは徳島県牟岐, 高知県柏島, 男女群島, 屋久島, 奄美群島(奄美大島・

加計呂麻島・沖永良部島), 渡嘉敷島, 宮古島, および西表島からこれまで記録されていた(林, 2006; 吉田ほか, 2011; 林, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; 吉田, 2019; 田中ほか, 2020; Motomura and Uehara, 2020)。本研究により鹿児島県薩摩半島沿岸からも本種が記録された。

備考 シボリダマシの記録は「分布」の項目に示した通りであり, 南さつま市産の標本は本種の九州沿岸における初記録となる。

チョウチョウオ科 Chaetodontidae

Chaetodon nippon Steindachner and Döderlein, 1883

シラコダイ (Fig. 1C)

標本 KAUM-I. 172867, 体長 22.9 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町塩ヶ浦沖 (31°15'16"N, 130°13'59"E), 水深 3–20 m, 手網, 2022 年 9 月 8 日, 松岡 翠・ジョン ビヨル・望月健太郎・佐藤智水。

同定 南さつま市産の標本は背鰭鰭条が XIII, 19 であること, 臀鰭鰭条が III, 16 であること, 側線上方横列鱗数が 9 であること, 側線下方横列鱗数が 19 であること, 体形が不等辺四角形であること, 背鰭棘条部基部長が背鰭軟条部基部長より長いこと, 側線が不完全で, 背鰭最終軟条下方で中断すること, 背鰭棘条部後半の基部が鱗鞘で覆われること, 臀鰭第 2 棘が臀鰭第 3 棘より長いこと, 背鰭棘間の基膜が三角形に切れ込むこと, 背鰭中央部が著しく高いこと, 背鰭後縁が臀鰭後縁直下に位置すること, 眼上部に明瞭な暗色横帯をもたないこと, および背鰭軟条部基部下方と臀鰭基部後方上方が黒褐色であることなどの特徴が Burgess (1978) や島田 (2013a) の示したシラコダイ *C. nippon* の特徴とよく一致したことから, 本種に同定された。

分布 朝鮮半島, 日本, 台湾, 中国, およびフィリピンから記録されている (Burgess, 1978; 島田, 2013a; 本村, 2022)。日本国内からは山口県日本海沿岸, 伊豆諸島, 小笠原諸島, 千葉県外房から九州南岸にかけての太平洋沿岸, および大隅諸島(硫黄島・竹島・屋久島)から記録されていた (Motomura and Matsuura, 2010; 河野ほか, 2011; 島田, 2013a; 岩坪, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; 小枝, 2020; 山崎, 2021; Jeong and Motomura, 2021; 工藤ほか, 2022; Koeda et al., 2022)。本研究により鹿児島県薩摩半島沿岸からも新たに記録された。

備考 シラコダイの記録は「分布」に示した通りであり, 南さつま市産の標本は本種の東シナ海沿岸における初記録となる。本標本は前鰓蓋骨, 後側頭骨, および上擬鎖骨が発達しており, 骨板化していること, 背鰭軟条部に黒色斑をもつこと, および臀鰭軟条部の中央部に黒色横帯をもつ

ことから、トリクチス幼生であると考えられる (津本・木村, 2014).

ゴンベ科 Cirrhitidae

Paracirrhites arcatus (Cuvier, 1829)

メガネゴンベ (Fig. 1D)

標本 KAUM-I. 170831, 体長 62.5 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦神ノ島北側 (31°26'01"N, 130°11'06"E), 水深 3–25 m, 手網, 2022 年 8 月 2 日, 山田守彦・松岡 翠・ジョン ビョル・望月健太郎・佐藤智水.

同定 南さつま市産の標本は背鰭軟条数が 11 であること, 側線上方横列鱗数が 5 であること, 頬部鱗列数が 5 であること, 体が中程度に細長く, 体長が体高の 2.4 倍であること, 吻長が短く, 頭長が吻長の 3.4 倍であること, 両顎に円錐歯が並び, 上顎前方と下顎側方にそれぞれ 1 対ずつ犬歯状歯をもつこと, 口蓋骨に歯をもたないこと, すべての背鰭棘条先端にそれぞれ 1 個の糸状突起をもつこと, 背鰭最長棘条間の基膜がやや切れ込むこと, および尾鰭の後縁が丸みを帯びることなどの特徴が Randall (2001) と Gaither and Randall (2012) の示したホシゴンベ属 *Paracirrhites* の特徴と一致した. さらに本標本は側線鱗数が 45 であること, 鼻孔より前方の吻部が被鱗しないこと, 胸鰭第 2 軟条が分枝しないこと, 眼の後方に環状の黄色の斑紋をもつこと, 間鰓蓋骨上に 3 本の短い橙色の横帯をもつこと, および体側面中央上方から尾部にかけて白色縦帯をもつことなどの特徴が Randall (2001) の示したメガネゴンベ *P. arcatus* の特徴とよく一致したことから, 本種に同定された.

分布 インド・太平洋に広く分布する (Randall, 2001; Donaldson and Randall, 2022). 日本国内からは伊豆諸島 (三宅島・八丈島), 豆南諸島, 小笠原諸島, 和歌山県田辺湾, 日向灘, 大隅諸島 (口永良部島・屋久島), トカラ列島 (口之島・中之島・平島・小宝島), 奄美群島 (奄美大島・加計呂麻島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島), 沖縄諸島 (慶良間諸島・久米島), 南大東島, 宮古諸島, および八重山諸島 (西表島・与那国島) から記録されていた (松浦, 2006a; Senou et al., 2007; 坂井ほか, 2009; Motomura and Matsuura, 2010; 林・萩原, 2013a; 田代, 2014a; Kuriwa et al., 2014; Koeda et al., 2016; 吉野, 2017; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 小枝, 2019; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020). 本研究により鹿児島県薩摩半島沿岸からも本種が記録された.

備考 メガネゴンベの記録は「分布」の項目に示した通りであり, 九州沿岸においては日向灘からウェブサイト

に掲載された写真に基づき記録されたのみである (Iwatsuki et al., 2017). そのため, 南さつま市産の標本は本種の標本に基づく九州沿岸初記録となる.

Paracirrhites forsteri (Schneider, 1801)

ホシゴンベ (Fig. 1E)

標本 KAUM-I. 173699, 体長 57.5 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦神ノ島東側 (31°26'03"N, 130°11'48"E), 水深 3–20 m, 手網, 2022 年 9 月 26 日, 山田守彦・上野大輔・松岡 翠・ジョン ビョル・望月健太郎・佐藤智水.

同定 南さつま市産の標本は背鰭軟条数が 11 であること, 側線上方横列鱗数が 5 であること, 頬部鱗列数が 6 であること, 体が中程度に細長く, 体長が体高の 2.7 倍であること, 吻長が短く, 頭長が吻長の 3.4 倍であること, 両顎に円錐歯が並び, 上顎前方に 2 対, 下顎側方に 1 対の犬歯状歯をそれぞれもつこと, 口蓋骨に歯をもたないこと, すべての背鰭棘条先端にそれぞれ 1 個の糸状突起をもつこと, 背鰭最長棘条間の基膜がやや切れ込むこと, および尾鰭の後縁が丸みを帯びることなどの特徴が Randall (2001) と Gaither and Randall (2012) の示したホシゴンベ属 *Paracirrhites* の特徴と一致した. さらに本標本は側線鱗数が 48 であること, 鼻孔より前方の吻部が被鱗すること, 背鰭第 10 棘が背鰭第 9 棘よりやや長いこと, 胸鰭第 2 軟条が分枝すること, 眼の後方に環状の斑紋をもたないこと, および頭部から体側面前方上方にかけて暗色斑が散在することなどの特徴が Randall (2001) の示したホシゴンベ *P. forsteri* の特徴とよく一致したことから, 本種に同定された.

分布 インド・太平洋に広く分布する (Randall, 2001; Donaldson and Randall, 2022). 日本国内からは伊豆諸島 (三宅島・八丈島), 豆南諸島, 小笠原諸島, 和歌山県 (田辺湾・串本), 愛媛県宇和海, 高知県沖ノ島, 鹿児島県薩摩半島, 大隅諸島 (種子島・口永良部島・屋久島), トカラ列島 (口之島・中之島・平島・小宝島), 奄美群島 (奄美大島・加計呂麻島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島), 沖縄諸島 (沖縄島・伊江島・慶良間諸島), 南大東島, 宮古諸島, および八重山諸島 (石垣島・西表島・与那国島) から記録されている (Senou et al., 2006, 2007; 松浦, 2006b; 吉郷・中村, 2008; 坂井ほか, 2009; Motomura and Matsuura, 2010; 林・萩原, 2013a; 田代, 2014b; 小枝ほか, 2015; Kuriwa et al., 2014; Koeda et al., 2016; 吉野, 2017; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 小枝, 2019; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 小枝, 2022).

備考 ホシゴンベの記録は「分布」に示した通りであり, 九州沿岸においては鹿児島県薩摩半島から水中写真に基づ

き記録されたのみである (小枝, 2022). そのため, 南さつま市産の標本は本種の標本に基づく九州沿岸初記録となる.

ベラ科 Labridae

Halichoeres hartzfeldii (Bleeker, 1852)

キスジキュウセン (Fig. 1F)

標本 2 個体 (体長 44.2–48.2 mm) : KAUM-I. 170642, 体長 48.2 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦高崎山沖 (31°26'17"N, 130°09'21"E), 水深 3–25 m, 手網, 2022 年 8 月 2 日, 山田守彦; KAUM-I. 170824, 体長 44.2 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦神ノ島南側 (31°25'52"N, 130°11'07"E), 水深 3–15 m, 手網, 2022 年 8 月 2 日, 山田守彦.

同定 南さつま市産の標本は背鰭鰭条が IX, 11 であること, 側線有孔鱗数が 28 であること, 体長が体高の 3.9–4.1 倍であること, 吻が著しく突出しないこと, 口が筒状ではないこと, 両唇が肥厚しないこと, 下顎に切れ込みをもたないこと, 両顎歯が犬歯状歯であること, 両顎歯先端部の一對の歯がそれぞれ大きく, 前方に突出しないこと, 前鰓蓋骨後縁が円滑であること, 側線が完全であり, 背鰭後半下方で急下降すること, 頬部と鰓蓋上方が被鱗しないこと, 胸部の鱗が体側中央部の鱗より小さいこと, 背鰭起部が主鰓蓋骨の後半上方に位置すること, 背鰭棘間の基膜が伸長しないこと, および体側に 1 本の黄色の縦帯をもち, 暗色縦帯をもたないことなどの特徴が島田 (2013b) の示したキスジキュウセン *H. hartzfeldii* の特徴と一致したことから, 本種に同定された.

分布 西太平洋に広く分布する (島田, 2013b; Victor, 2016). 日本国内からは伊豆諸島, 小笠原諸島, 静岡県富戸, 和歌山県串本, 高知県柏島, 愛媛県愛南町, 鹿児島県薩摩半島, 大隅諸島 (竹島・口永良部島・屋久島), 奄美群島 (奄美大島・加計呂麻島・与論島), 沖縄諸島 (沖縄島・伊江島・水納島・慶良間諸島), 宮古諸島, および八重山諸島 (石垣島・西表島) から記録されている (荒賀, 2006; Senou et al., 2006, 2007; 吉郷・中村, 2008; 西山・本村, 2012; 島田, 2013b; 片山, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 本村, 2019b; Jeong and Motomura, 2021; 田代・古橋, 2022).

備考 キスジキュウセンの記録は「分布」に示した通りであり, 九州沿岸においては鹿児島県薩摩半島から水中写真に基づき記録されたのみである (田代・古橋, 2022). そのため, 南さつま市産の標本は本種の標本に基づく九州沿岸初記録となる.

Suezichthys gracilis (Steindachner and Döderlein, 1887)

イトベラ (Fig. 1G)

標本 4 個体 (体長 29.4–65.3 mm) : KAUM-I. 170801, 体長 61.9 mm, KAUM-I. 170802, 体長 29.4 mm, KAUM-I. 170814, 体長 65.3 mm, KAUM-I. 170815, 体長 60.8 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦神ノ島南側 (31°25'52"N, 130°11'07"E), 水深 3–15 m, 手網, 2022 年 8 月 2 日, 山田守彦.

同定 南さつま市産の標本は背鰭棘数が 9 であること, 臀鰭軟条数が 10 であること, 尾鰭分枝軟条数が 12 であること, 側線鱗数が 25 であること, 側線上方横列鱗数が 1.5 であること, 体が細長く, 体長が体高の 4.2–5 倍であること, 口が筒状ではなく, 下唇に切れ込みをもたないこと, 眼窩後方に 2–3 列の鱗が並ぶこと, 眼窩下方に 3 列の鱗が並ぶこと, 胸部と体部の鱗が比較的大きいこと, 背鰭基部と臀鰭基部に鱗鞘をもたないこと, および側線が完全であることなどの特徴が Russell (1985), Westneat (2001), および Russell and Westneat (2013) の示したイトベラ属 *Suezichthys* の特徴と一致した. さらに本標本は臀鰭鰭条が III, 10 であること, 側線上方横列鱗数が 1.5 であること, 眼窩後方に 2–3 列の鱗が並ぶこと, 眼窩下方に 3 列の鱗が並ぶこと, 背鰭基部と臀鰭基部に鱗鞘をもたないこと, 背鰭起部付近に黒色斑をもたないこと, および尾鰭基底部に黒色斑をもつなどの特徴が Russell and Westneat (2013) の示したイトベラ *S. gracilis* の特徴とよく一致したことから, 本種に同定された.

分布 朝鮮半島, 日本, 台湾, 中国, およびオーストラリアに分布する (Russell, 1985; Westneat, 2001; 島田, 2013b; 本村, 2022). 日本国内からは青森県蓬田, 富山湾から九州北西までの日本海沿岸, 伊豆大島, 小笠原諸島, 千葉県館山湾から九州南岸にかけての太平洋沿岸, 瀬戸内海, 対馬列島, 長崎県野母崎, 鹿児島県薩摩半島, 屋久島, 奄美大島, および伊江島から記録されている (Senou et al., 2006; 田和・竹垣, 2009; Motomura and Matsuura, 2010; 清水, 2013; 島田, 2013b; 竹内ほか, 2015; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; Nakae et al., 2018; 本村, 2019b; 園山ほか, 2020; 田代・古橋, 2022; 工藤ほか, 2022).

備考 イトベラの記録は「分布」に示した通りである. 本種は鹿児島県薩摩半島沿岸から水中写真のみに基づき記録されていた (田代・古橋, 2022). 本研究では新たに同地域から得られた標本に基づき本種が記録された.

モンガラカワハギ科 Balistidae

Pseudobalistes fuscus (Bloch and Schneider, 1801)

イソモンガラ (Fig. 1H)

標本 KAUM-I. 170648, 体長 50.7 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦神ノ島北側 (31°26'01"N, 130°11'06"E), 水深 3–25 m, 手網, 2022 年 8 月 2 日, 山田守彦・松岡 翠・ジョン ビョル・望月健太郎・佐藤智水.

同定 南さつま市産の標本は尾柄部が側扁すること, 口が端位であること, 眼と鼻孔下方の間が窪むこと, 両顎歯が白色であり, 前方に突出せず, 先端付近に欠刻があり, 大きさがそれぞれ不揃いであること, 頬部の前方が無鱗で, 後方が小さい鱗で覆われること, 鰓蓋後部に骨質の肥大鱗があること, および背鰭と臀鰭の上縁が丸みを帯びることなどの特徴が Matsuura (2001, 2022) の示したキヘリモンガラ属 *Pseudobalistes* の特徴と一致した. さらに本標本は尾柄部に小棘をもたないことと背鰭と臀鰭の上縁が丸みを帯びることなどの特徴が Matsuura (2001, 2022) の示したイソモンガラ *P. fuscus* の特徴によく一致し, 本種に同定された.

分布 インド・太平洋に広く分布する (Matsuura, 2001, 2022). 日本国内からは兵庫県浜坂, 小笠原諸島, 南硫黄島, 神奈川県三浦半島から日向灘にかけての太平洋沿岸, 男女群島, 屋久島, トカラ列島平島, 奄美群島 (奄美大島・沖永良部島), 沖縄諸島 (沖縄島・伊江島・水納島・渡嘉敷島), 南大東島, 宮古諸島, および八重山諸島 (西表島・与那国島) から記録されていた (松浦, 2006c, 2019; Senou et al., 2006, 2007; 坂井ほか, 2009; Motomura and Matsuura, 2010; 林・萩原, 2013b; Koeda et al., 2016; 吉野, 2017; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; Nakae et al., 2018; Koeda and Akita, 2018; 田中ほか, 2020; Motomura and Uehara, 2020; 下瀬, 2021; 村瀬, 2021). 本研究により鹿児島県薩摩半島沿岸からも本種が記録された.

備考 イソモンガラの記録は「分布」に示した通りであり, 九州沿岸からは日向灘からのみ記録されていた (Iwatsuki et al., 2017). Iwatsuki et al. (2017) は日向灘を大分県佐賀関から鹿児島県大隅半島東岸までの海域と区分したが, 本種が記録された詳細な産地は示されていない. そのため, 南さつま市産の標本は本種の鹿児島県本土における確かな記録となる.

謝 辞

鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の登録作業においてご協力いただいた. 同研究室の古橋龍星氏には文献の収集にご協力いただいた. 鹿児島大学大学院理工学研究科の上野大輔氏と釣りいかだ Rock Fish の黒瀬盛央氏には採集調査に際してご協力いただいた. Ichthy 編集委員の中村潤平氏と査読者には原稿に対して貴重な助言をいただいた. 以上の方々に謹んで感謝の意を表する. 本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた. 本研究の一部

は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (20H03311・21H03651), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」, および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた.

引用文献

- 尼岡邦夫. 1984. フサカサゴ科, p. 296. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑 (解説). 東海大学出版会, 東京.
- 荒賀忠一. 2006. キスジキウセン, pp. 496–497. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 3 版第 6 刷. 山と溪谷社, 東京.
- Burgess, W. E. 1978. Butterflyfishes of the world. A monograph of the family Chaetodontidae. T. F. H. Publications, Neptune. 832 pp.
- 出羽優風・伊東正英・本村浩之. 2022a. 鹿児島県から得られた日本初記録のウツボ科魚類 *Gymnothorax pseudoprolatus* チャイロウツボ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.22-008 (24 June 2022), 69: 153–158 (19 Nov. 2022).
- 出羽優風・望月健太郎・松岡 翠・中村潤平・石原祥太郎・橋本慎太郎・佐藤智水・畠中柚菜・本村浩之. 2022b. 大隅諸島黒島から得られた初記録の魚類 86 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 15–31. [URL](#)
- Donaldson, T. J. and J. E. Randall. 2022. Cirrhitidae, pp. 73–82. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) Coastal fishes of the western Indian Ocean. Vol. 4. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda. [URL](#)
- Eschmeyer, W. N. 1969. A systematic review of the scorpionfishes of the Atlantic Ocean (Pisces: Scorpaenidae). Occasional Papers of the California Academy of Sciences, 79: i–iv + 1–143. [URL](#)
- Fraser, T. H., O. Gon and M. Kraai. 2022. Apogonidae, pp. 167–223. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) Coastal fishes of the western Indian Ocean. Vol. 3. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda. [URL](#)
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island, in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 14: 1–73. [URL](#)
- Gaither, M. E. and J. E. Randall. 2012. On the validity of the cirrhitid fish genus *Itycirrhitus*. Aqua, International Journal of Ichthyology, 18: 4–15.
- 林 公義. 2006. シボリダマシ, pp. 288–289. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 3 版第 6 刷. 山と溪谷社, 東京.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科, pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・萩原清司. 2013a. ゴンベ科, pp. 1018–1021, 2029–2030. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・萩原清司. 2013b. モンガラカワハギ科, pp. 1703–1711, 2235–2236. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 樋口聡文・久木田直斗・本村浩之. 2022. 九州初記録のスズメダイ科魚類ルリスズメダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 22: 5–8. [URL](#)
- 岩坪洗樹. 2013. シラコダイ, pp. 182–183. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之. 2022. 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 329 pp.

- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55. [URL](#)
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116. [URL](#)
- 片山英里. 2013. キスジキュウセン, p. 259. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫. 2011. 山口県日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, 9: 29–64. [URL](#)
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 200 pp. [URL](#)
- 小枝圭太. 2019. ゴンベ科, pp. 215–217. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2020. シラコダイ, p. 414. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編) 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. [URL](#)
- 小枝圭太. 2022. ゴンベ科, pp. 170–171. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Koeda, K., M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2022. Report on the specimens of family Chaetodontidae (Teleostei: Perciformes) deposited in the Department of Zoology, the University Museum, the University of Tokyo with comments on distributional shifted in these 100 years. *The University Museum, the University of Tokyo Material Reports*, 128: 65–84.
- Koeda, K. and Y. Akita. 2018. Illustrated list of additions to the ichthyofauna of Yonaguni-jima island, the westernmost island of Japan: 37 new specimen-based records from the island. *Fauna Ryukyuan*, 41: 1–9. [URL](#)
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisara, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. *The Kagoshima University Museum, Kagoshima*. v + 120 pp. [URL](#)
- 小枝圭太・吉田朋弘・田代郷国・本村浩之. 2015. 屋久島と種子島の魚類相調査. 南太平洋海域調査研究報告, 56: 41–44. [URL](#)
- 是枝伶旺・古橋龍星・山下龍之丞・本村浩之. 2022. 九州南部と屋久島から採集された分布南限を更新するナガミミズハゼ種群未同定種 2 *Luciogobius* sp. 16 sensu Shibukawa et al. (2019) の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 25: 13–26. [URL](#)
- Koreeda, R. and H. Motomura. 2022. *Luciogobius punctilineatus*, a new earthworm goby from southern Japan. *Zootaxa*, 5138: 137–151.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2022. 薩摩半島から得られた北限記録となる熱帯・亜熱帯性ハゼ科魚類 3 種 (トサカハゼ, スダレウロハゼ, イワハゼ). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 26: 4–17. [URL](#)
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. 神奈川自然誌資料, 43: 97–142. [URL](#)
- Kuiter, R. H. and T. Kozawa. 2019. *Cardinalfishes of the world*. Aquatic Photographics, Seaford and Anthis, Okazaki. 198 pp.
- Kuriwa, K., H. Arihara, S. N. Chiba, S. Kato, H. Senou and K. Matsuura. 2014. Checklist of marine fishes of the Zunan Islands, located between the Izu and Ogasawara (Bonin) islands, Japan, with zoogeographical comments. *Check List*, 10: 1479–1501. [URL](#)
- Mabuchi, K., T. H. Fraser, H. Song, Y. Azuma and M. Nishida. 2014. Revision of the systematics of the cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) based on molecular analyses and comparative reevaluation of morphological characters. *Zootaxa*, 3846: 151–203.
- Matsuura, K. 2001. Balistidae, triggerfishes, pp. 3911–3928. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific*. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals. FAO, Rome.
- 松浦啓一. 2006a. メガネゴンベ, p. 429. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 3 版第 6 刷. 山と溪谷社, 東京.
- 松浦啓一. 2006b. ホシゴンベ, p. 430. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 3 版第 6 刷. 山と溪谷社, 東京.
- 松浦啓一. 2006c. イソモンガラ, pp. 690–691. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 3 版第 6 刷. 山と溪谷社, 東京.
- 松浦啓一. 2019. モンガラカワハギ科, pp. 406–411. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Matsuura, K. 2022. Balistidae, pp. 414–429. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) *Coastal fishes of the western Indian Ocean*. Vol. 5. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda. [URL](#)
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80. [URL](#)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 本村浩之. 2013. プチフサカサゴ, pp. 64–65. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 本村浩之. 2014. プチフサカサゴ, pp. 132–133. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 本村浩之. 2019a. フサカサゴ科 (フサカサゴ亜科), pp. 70–78. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本村浩之. 2019b. ベラ科, pp. 256–282. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本村浩之. 2022. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 18. [URL](#)
- Motomura, H., M. Aizawa and H. Endo. 2014. *Sebastapistes perplexa*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from Japan. *Species Diversity*, 19: 133–139. [URL](#)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183. [URL](#)
- Motomura, H. and K. Matsuura. 2010. Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *National Museum of Nature and Science, Tokyo*. viii + 264 pp. [URL](#)
- Motomura, H. and H. Senou. 2009. New records of the dwarf scorpionfish, *Sebastapistes fowleri* (Actinopterygii: Scorpaeniformes: Scorpaenidae), from East Asia, and notes on Australian records of the species. *Species Diversity*, 14: 1–8. [URL](#)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125. [URL](#)
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (*Scorpaenidae: Scorpaenopsis*) の分類学的検討. *魚類学雑誌*, 51: 89–115. [URL](#)
- 村瀬敦直. 2021. イソモンガラ, pp. 236–237. 村瀬敦直・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編) 新・門川の魚図鑑 ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学研究センター延岡フィールド, 延岡.

- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361. [URL](#)
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. フサカサゴ科, pp. 683–705, 1939–1946. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 西山一彦・本村浩之. 2012. 日本のペラ大図鑑. 東方出版, 大阪. 303 pp.
- Poss, S. G. 1999. Scorpaenidae. Scorpionfishes (also, lionfishes, rockfishes, stingfishes, stonefishes and waspfishes), pp. 2291–2352. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 4. Bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangidae)*. FAO, Rome.
- Poss, S. G. and H. Motomura. 2022. Scorpaenidae, pp. 506–549. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) *Coastal fishes of the western Indian Ocean. Vol. 2. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda*. [URL](#)
- Randall, J. E. 2001. Family Cirrhitidae. Hawkfishes, pp. 3321–3328. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae)*. FAO, Rome.
- Russell, B. C. 1985. Revision of the Indo-Pacific labrid fish genus *Suezichthys*, with descriptions of four new species. *Indo-Pacific Fishes*, 2: 1–21, pls. 1–2.
- Russell, B. C. and M. W. Westneat. 2013. A new species of *Suezichthys* (Teleostei: Perciformes: Labridae) from the southeastern Pacific, with a redefinition of the genus and a key to species. *Zootaxa*, 3640: 88–94.
- 坂井陽一・門田立・清水則雄・坪井美由紀・山口修平・中口和光・郷秋雄・増井義也・橋本博明・具島健二. 2009. トカラ列島の島、中之島、平島、小宝島における浅海魚類相—2002年–2007年の潜水センサス調査から—. *広島大学大学院生物圏科学研究科紀要*, 48: 19–35. [URL](#)
- 佐藤智水・本村浩之. 2022. 薩摩半島から得られた九州沿岸初記録のコバンハゼ属魚類3種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 27: 32–39. [URL](#)
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74. [URL](#)
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of Ie-jima island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92. [URL](#)
- 島田和彦. 2013a. チョウチウウオ科, pp. 990–1004, 2022–2025. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 島田和彦. 2013b. ペラ科, pp. 1088–1136, 2045–2056. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 清水孝昭. 2013. 愛媛県瀬戸内海域より初記録の魚類. *南予生物*, 17: 14–35. [URL](#)
- 下瀬環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 207 pp.
- 園山貴之・萩本啓介・堀成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. *鹿児島大学総合研究博物館研究報告*, 11: 1–152. [URL](#)
- 竹内直子・瀬能宏・清野聡子. 2015. 対馬の魚類相 1948–2015年の調査から. *日本生物地理学会会報*, 70: 1–11.
- 田中翔大・下光利明・瀬能宏・宮崎佑介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144種の追加記録. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 49: 107–118. [URL](#)
- 田代郷国. 2014a. メガネゴンベ, p. 318. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島と論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 田代郷国. 2014b. ホシゴンベ, p. 319. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島と論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 田代郷国・古橋龍星. 2022. ペラ科, pp. 194–213. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 田和篤史・竹垣毅. 2009. 長崎県野母崎沿岸の浅海性魚類相. *長崎大学水産学部研究報告*, 90: 9–18. [URL](#)
- 津本欣吾・木村清志. 2014. シラコダイ, pp. 903–904. 沖山宗雄 (編) 日本産稚魚図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 秦野.
- Victor, B. C. 2016. *Halichoeres gurobyi*, a new labrid fish (Teleostei: Labridae) from Mauritius in the southwestern Indian Ocean, with a review of the *H. zeylonicus* species complex. *Journal of the Ocean Science Foundation*, 22: 10–27. [URL](#)
- Westneat, M. W. 2001. Labridae, wrasses (also, hogfishes, razorfishes, corises, and tuskfishes), pp. 3381–3467. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals*. FAO, Rome.
- 山崎裕太. 2021. シラコダイ, pp. 172–173. 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能宏 (編) 新・門川の魚図鑑 ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡.
- 吉田朋弘. 2019. テンジクダイ科, pp. 116–145. 本村浩之・萩原清司・瀬能宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 吉田朋弘・藍澤正宏・本村浩之. 2011. テンジクダイ科魚類7種の屋久島における初記録. *Nature of Kagoshima*, 37: 119–125. [URL](#)
- 吉郷英範・中村慎吾. 2008. 庄原市立比和自然科学博物館魚類収蔵標本総合目録. 庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告, 8: 1–112, pl. 1.
- 吉野雄輔. 2017. 写真・解説, pp. 16–516. 瀬能宏 (監修) 山溪ハンディ図鑑 13. 改訂版. 日本の海水魚. 初版第7刷. 山と溪谷社, 東京.